

# 「第2期高校教育改革推進計画(案)」について

群馬県教育委員会  
高校教育課

社会の急激な変化や生徒の多様化、中学校卒業者の減少等を踏まえ、今後の本県高校教育に関する新たな計画を策定し、特色ある高校教育の推進に取り組みます。

## 「第2期高校教育改革推進計画(案)」の位置付け・概要

### 1 計画の位置付け

第3期教育振興基本計画の部門計画であり、第2期教育大綱の方向性を踏まえたもの

### 2 計画期間

10年間（令和4年度～令和13年度）

### 3 計画の概要

#### ① 高校教育改革の必要性

高校を取り巻く環境の変化（社会の変化、生徒の多様化、中学校卒業者の減少、教育のデジタル化）

#### ② 特色ある高校教育の推進

「誰一人取り残さない」社会を目指すSDGsの理念の下、全ての生徒に「たくましく生きる力の育成」を図ることを、いつの時代にも不変の目標と位置付け、取組を推進する。また、取組の方向の第一に「時代を切り拓く力の育成」を掲げ、教育のデジタルトランスフォーメーションによる学習環境の整備を進めるとともに、教育イノベーションを推進して群馬ならではの学びの充実を図る。

5つの取組の方向	内 容
<b>時代を切り拓く力の育成</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して課題解決に取り組む力を育成</li><li>・グローバル化やデジタル化の時代を生き抜くためのリテラシーを備え、新しい価値を創造できる「始動人」を育成</li></ul> <p>※ 取組例</p> <p>研究機関や大学との連携の推進</p> <p>ICTリテラシーの向上</p> <p>地元企業、産業界との連携の推進</p> <p>外国語教育の充実</p>
<b>確かな学力の育成</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の多様な学びのニーズに対応しつつ、新たな時代に求められる確かな学力を育成</li></ul> <p>※ 取組例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教科横断的な視点による教育課程の編成</li><li>・1人1台PCの活用による学習の個別最適化と協働的な学びの推進</li></ul> <p>外国語教育の充実</p>
<b>豊かな人間性と健やかな体の育成</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自他を大切に、互いに認め合う心を持ち、生涯を通じて健康で活力ある生活を送れるよう、心と体の両面から健康を育成</li></ul> <p>※ 取組例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事や部活動等の生徒主体の体験的な活動の推進</li><li>・情報モラルの向上と人間関係形成力の育成</li></ul>
<b>信頼される魅力的な学校づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新たな課題への学校の対応力を向上させるとともに、全ての生徒が安心して学べる環境の整備や、特色ある学校づくりを推進</li></ul> <p>※ 取組例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の指導力向上、スクールカウンセラー配置や合理的配慮の充実</li><li>・学校の魅力化、県立高校の再編整備</li></ul>
<b>地域との連携・協働の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・郷土への誇りや愛着の心の育成、地域に根ざし、幅広い分野で活躍できる人材の育成</li></ul> <p>※ 取組例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の課題解決や魅力向上をテーマとした学習の推進</li></ul>

### ③ 生徒受入体制の在り方（本県の子どもたちが本県で十分に学べる体制整備と魅力ある学校づくり）

項目	内容
公立と私立との協調	本県の子どもたちが本県で十分な高校教育を受けられるよう、公立と私立とで協調
県立高校の再編整備	中学校卒業者はR2～R13にかけて3千人以上減少し、公立高校学級数は全県で50学級以上の減となる見込み。現在の平均的な規模である1学年当たり5学級の学校で、10校以上の減となることから、再編整備を計画的に行い、地域と一体となって魅力ある学校づくりを推進
	学校活力維持のため、適正規模は1学年当たり4～8学級
	県内を、原則として8地区に分けつつ、実情に応じて、地区内を分けたり広域でまとめたりして検討
	各地区に、普通科を基盤とする一定規模の中核となる学校を維持
	職業系専門学科の専門性の維持のために、全県の視野で学科の拠点校を整備
	定時制・通信制については、多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施
小規模校の扱い ※ 1学年2学級規模校	ICTの活用等による高校教育の質の維持・向上を図りながら、特色化を推進
	充足率や地元中学校からの入学者数等の目安を踏まえて、再編整備を検討・実施
	教育の機会均等に配慮しながら、地元との意見交換の場を設定するなどして検討
学校・学科	魅力ある学校づくりのため、学校・学科の特性を生かし、特色化を推進
入学者選抜	「多様な選抜尺度により各生徒の優れた点を積極的に評価」の趣旨の下、制度の改善を図る
男女共学の推進	SDGsの理念を踏まえ、多様性を認め合う教育の推進
	県民の理解を得ながら、今後の高校教育改革の中で、男女共学化を推進

### ④ 地区別の再編整備の方向（地域や県民の理解を得ながら取組を推進）

地区	主な方向	
全地区共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科やコース等の見直し</li> <li>・通学状況に応じて、地区内を分けたり隣接地区を含めたりして柔軟に検討</li> <li>・地元と意見交換の場を設定</li> </ul>	
前橋	沼田・利根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模の地区の中核校を維持</li> <li>・多様な学びの保障</li> <li>・小規模校の在り方検討</li> <li>・定時制の在り方検討</li> <li>・利根沼田学校組合との連携</li> </ul>
伊勢崎・佐波	渋川・吾妻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模の地区の中核校を維持</li> <li>・各校の一層の特色化</li> <li>・福祉の拠点校整備</li> <li>・小規模校の在り方検討</li> <li>・定時制の在り方検討</li> </ul>
高崎・安中	太田・館林・邑楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模の地区の中核校を維持</li> <li>・各校の一層の特色化</li> <li>・必要に応じて地区内を分けて検討</li> <li>・小規模校の在り方検討</li> <li>・定時制・通信制の在り方検討</li> <li>・市教委との連携</li> </ul>
藤岡・多野・富岡・甘楽	桐生・みどり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模の地区の中核校を維持</li> <li>・令和3年度の再編整備を踏まえて各校の一層の特色化</li> <li>・定時制・通信制の在り方検討</li> <li>・市教委との連携</li> </ul>